

身體醫學についてのべ、肉體の病氣を治すためには心の調整も必要なことをのべました。遊戯治療はこうした立場の治療であつて、特に保育に於てこの事は重要視しなければならぬのです。遊戯治療と體の病氣の事については餘りのべませんでしたが、そのようにして心のしこりをとることが、結局丈夫な幼児をつくりあげることになるのです。遊戯治療はまだ完成したものではありませんが、心と體の丈夫な幼児をつくる保育の問題に於て、科學的な基礎を持つ中心的な研究といへませう。

保育關係の皆さまの御指導を御ねがいして終りといたしま

新刊 山下俊郎氏著 『兒童心理學』

山下氏の原著「幼兒心理學」は、既に多くの人々に讀まれて著名である。此の新著は、それにつゞく兒童期中心の好著である。近時新教育の要求に於て、兒童心理學の著述が月を追うて出る盛況である。斯界のために大に賀すべきである。此書はその中でも推賞すべき名著の一つである。

兒童期を中心としつゝ、その前の幼兒期とその後の青年期についても、

充分の記載がある。これは一貫の發達體である兒童を理解するには是非必要ない用意であつて、一つの時期だけでその時期の特質を知ることとはむづかしい。その點で、此の「幼兒の教育」誌の讀者、恐らくは皆「幼兒心理學」の讀者である諸君のためには、幼兒期の正しい把握のために、この「兒童心理學」の精讀をすゝめる。

この書は、第二編で、從來の兒童心

す。

附言一、第二回保育學會大會（昭和二十四年五月二十九日・東京女高師付屬幼稚園において開催）の際、私が發表した「子供とレクリエーション」の中で述べた「遊戯治療」について會員の方々から質問の手紙をいただいたのでそれに答えてこの一文をよせたのです。（筆者）

二、相場先生の發表された「子供とレクリエーションの研究」の要録は本誌第四十八巻・第七・八合併號一四頁以下に登載してあります。（編集部）

理に従つて、兒童の心的生活にいろいろの部面を分けて、その發達をできるだけ具體的にくわしく述べた後、第三篇で、それを材料として、小學校の學年別の特質を描きだしてある。これは實際教育者のために素より、學年別によつて我子を考ふる親のためにも、極めて便利有用である。

本誌連載の講座によつて、特に著者に親しみの多い皆さんは、必ずや此書を喜び迎えられるであらう。

（東京都文京區番羽町光文社定價四百圓）